



the most beautiful
villages
in japan
「日本で最も美しい村」連合

むらバス運行が
地域にもたらしたものの



2024.3.15
地域公共交通シンポジウム
赤井川村 総務課長 高松重和

今日 お話しすること

1. 自己紹介と赤井川村の概況
2. ガバメント・クラウドファンディングの取り組み
3. 赤井川村らしい「むらバス」運行体制
4. 利用される公共交通への挑戦
5. 「むらバス」が地域にもたらしたこと

自己紹介



<職歴>

- 平成5年 赤井川村役場 奉職
「福祉」の仕事を担当
- 平成14年 「農業」の仕事を担当
- 平成22年 「総務」の仕事を担当
- 平成24年 「総務課総務係長」
- 平成25年 「東京財団週末学校」受講
- 平成26年 「産業課地域振興係長」
道の駅開業の仕事を担当
- 平成28年 総務に戻る……
ふるさと納税の仕事を担当
- 平成30年 「総務課主幹」
バス路線問題に直面……
- 令和元年7月 「総務課長」

現在に至る

赤井川村の概況【むらバス運行 以前】



○交通資源 (2021.4)

- 北海道中央バス「赤井川」線
4便(8往復)・・・月～土
日曜・祝祭日運休
ルート 常盤～余市駅
- 赤井川ハイヤー 車両1台
- スクールバス 車両1台
(赤井川ハイヤー受託)
- 日、祝日代替交通 市町村運営有償運送
4便(8往復)・・・日曜日、祝祭日運行
赤井川ハイヤー受託(2019.12～)
車両 スクールバス活用

赤井川村の概況【むらバス運行後】



○交通資源 (2024.1)

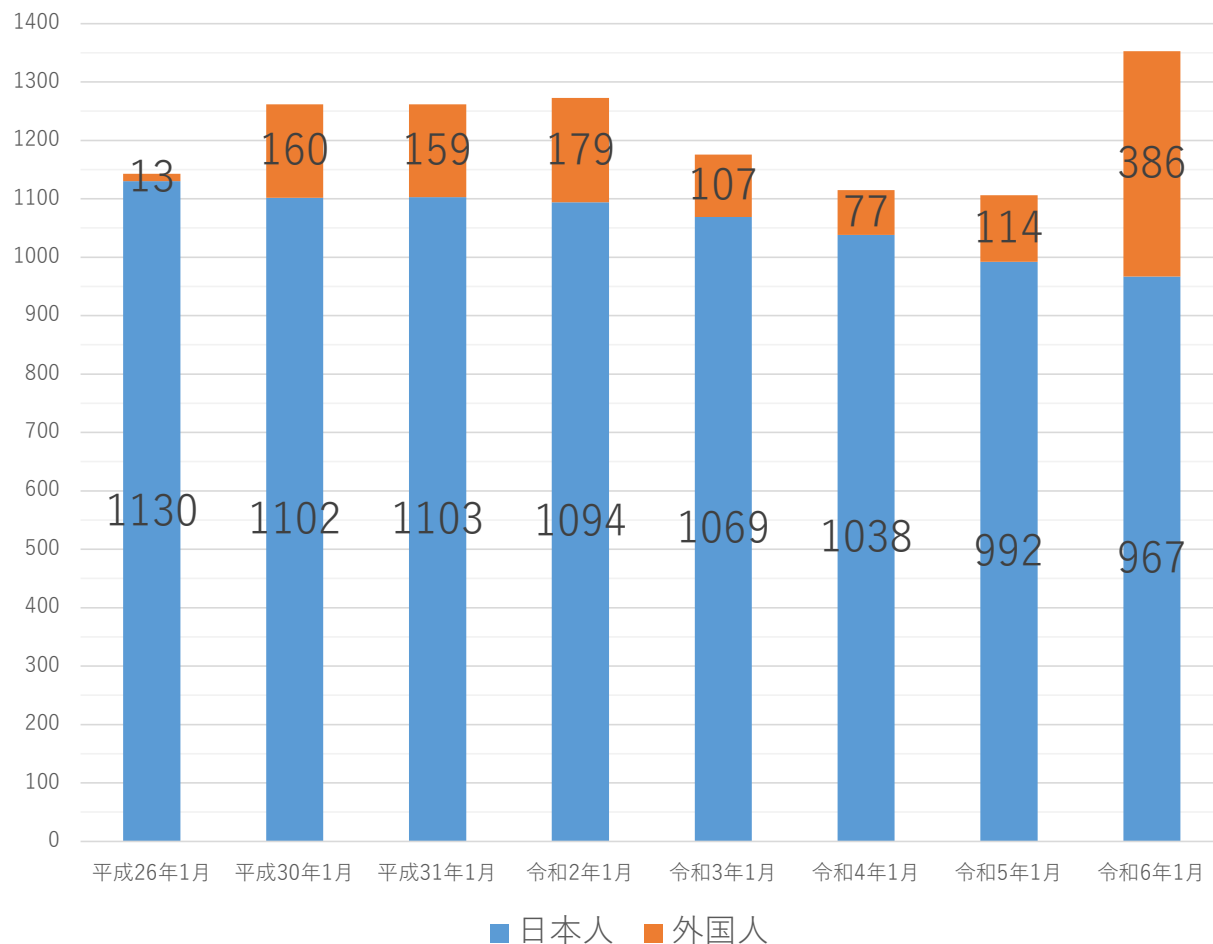
【自家用有償運送(交通空白)】 2022.4～
 ・「むらバス」 事業主体－赤井川村
 4便(8往復)・・・月～土
 3便(6往復)土・日・祝祭日
 ルート キロロリゾート～
 コープさっぽろ余市店

【自家用有償運送(交通空白)】 2023.8～
 ・「お出かけアシストサービス」
 事業主体－赤井川村社協
 平日 原則3日前予約
 会員制 村内片道100円
 自宅～バス停 自宅～郵便局など
 ・「通院サービス」
 平日 原則3日前
 村内・仁木町・余市町

- ・むらバス 車両1台
- ・赤井川ハイヤー 車両1台
- ・スクールバス 車両1台
(赤井川ハイヤー受託)
- ・キロロバス 車両4台(むらバス登録)

赤井川村の概況【人口推移】

赤井川村人口推移(2014.1～2024.1)



－ 赤井川村人口構造の特徴－

- ①外国人人口割合が高い
令和6年1月 外国人住民386人
人口に占める割合28.5%
- ②日本人人口は年々減少
令和3年1月 1069人
令和6年1月 967人
△102人
- ③実高齢化率
令和6年1月 34.02%
※外国人住民除く
参考 24.39%
※外国人住民含む

むらバス運行までの軌跡については、 北海道運輸局ホームページをご覧ください

<https://www.tb.mlit.go.jp/hokkaido/bunyabetsu/tiikikoukyoukoutsuu>

北海道運輸局 > 地域公共交通 > 地域公共交通人材育成研修

地域公共交通
印刷用ページ

令和4年度事業評価の概要
2022年9月22日 更新

令和3年度事業評価の概要

令和2年度事業評価の概要

平成31年度・令和元年度事業評価の概要

平成30年度事業評価の概要

地域公共交通維持・活性化推進に関する調査

マニュアル(ガイドブック)

総合政策部公共交通政策部からのお知らせ

令和6年2月15日開催 地域公共交通シンポジウムin北海道

令和4年9月14日開催 地域公共交通シンポジウムin北海道

令和3年2月14日開催 地域公共交通シンポジウムin札幌

令和2年2月4日開催 地域公共交通シンポジウムin北海道

平成30年12月7日開催 地域公共交通シンポジウムin北海道

地域公共交通人材育成研修

●開催趣旨
令和2年11月の地域公共交通活性化再生法改正により、全ての地方公共団体において地域交通に関するマスタープランとなる計画(地域公共交通計画)の策定が努力義務化され、地方公共団体が交通事業者と協働し始める関係者と協働しながら、公共交通の改善や地域にふさわしい移動手段の確保に向けて取組むことが求められています。また、ポストコロナ時代の社会構造変化に対応し移動の利便性向上を図るため、公共交通のデジタル化、MaaSやITを活用した新たなモビリティサービスの導入等の検討も重要となっています。
このため北海道運輸局では、計画策定の更なる推進と新たなモビリティサービス等の導入を支援すべく、地方公共団体においてその中心となり得る人材の育成を目的として、特定非営利活動法人まちづくり支援センター(国)寺城代表理事を講師とし、地方公共団体交通担当者を対象とした「地域公共交通人材育成研修」を令和4年9月1日(木)～9月2日(金)に開催しました。

●開催日時
令和4年9月1日(木) 13:00～17:00
令和4年9月2日(金) 10:00～17:00

●開催場所
TKP札幌駅カンファレンスセンター ホール3A
札幌市北区北7条西2丁目9-1ベルヴェオファシ札幌

●プログラム(PDF)
<9月1日>
説明 『地域公共交通に係る各種制度等について』
○国土交通省 北海道運輸局 交通政策部 交通企画課職員

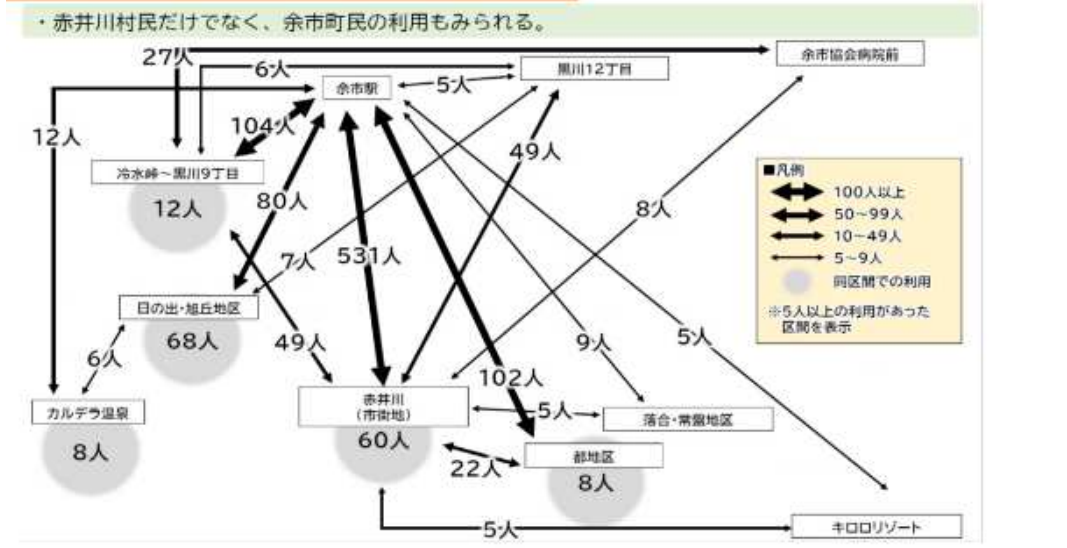
講義 『行政担当者のための地域公共交通入門～公共交通に関する基礎的な知識の習得に向けて』
○NPO法人まちづくり支援センター代表理事
総務省 地域力創造アドバイザー 国 寺城 兵

事例紹介 『むらバス運行までの軌跡』
○赤井川村 総務課長 高松 重和 氏

ー地域内交通資源の活用による交通空白地の解消に向けた実証運行調査概要ー 赤井川村

実証運行(2021年10月～11月)の特徴:地域事業者の協力体制による公共交通体系の構築

実証運行によりわかったこと



「むらバス」の運行状況(2022.4.1～)



－ 2022. 4. 1むらバス運行－
 2021.10～11月 実証運行結果を踏まえ

運行主体 赤井川村

事業委託 赤井川ハイヤー

(市町村自家用有償運送(交通空白))



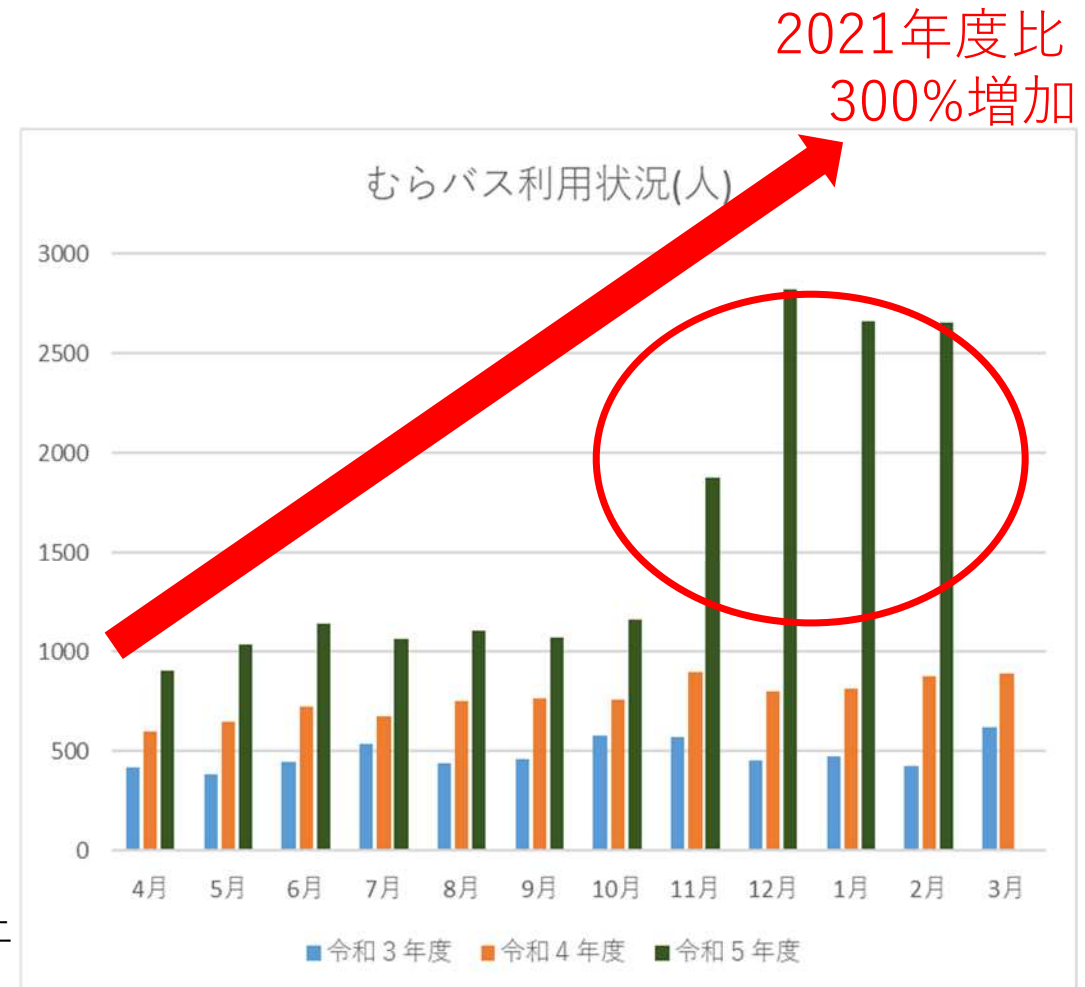
赤井川村の概況【むらバスの利用状況】

むらバス利用状況

令和3年度(2021年度) 5,784人
北海道中央バス赤井川線
+ 実証運行(2か月) + 日・祝代替交通

令和4年度(2022年度) 9,184人
むらバス運行初年度
高校生通学利用取り組み

令和5年度(2023年度) 17,491人
むらバス運行2年度目
キロロリゾートスタッフ通勤+観光利用+住民認知向上



「むらバス」の運行状況(2022.4.1～)



むらバス運行の特徴

- ①地域交通資源のフル活用
・事業者連携による共創
- ②運行ルート・ダイヤのデザイン
・実証運行data活用、通学環境・接続環境向上
- ③バス運賃の自主的な決定
・わかりやすい運賃の仕組み、片道定期券の導入

ガバメント・クラウドファンディングの取り組み

◆公共交通で村の未来をつなぐプロジェクト(2021年11月)



資金調達く共感

- ・ガバメント・クラウドファンディング
- ・企業版ふるさと納税

「共感」＝「関係人口」
寄付者との“つながり”を大切にする取り組み

ガバメント・クラウドファンディングの取り組み

ふたばクラウドファンディング

プロジェクト名: 北海道 赤井川村 地域公共交通バス導入プロジェクト

目標金額: 5,001,300円

達成率: 100%

参加人数: 289人

終了まで: 受付終了

北海道赤井川村 (ほっかいどうあかいがわむら) にお住まいの方

このプロジェクトは終了しました

村長している関係の方

寄付募集期間: 2021年12月9日～2022年1月22日(73日間)

カテゴリ: 子育て・教育・福祉 / 地域・自治体

500円: 11,564回寄付された方がいます

ふるさと納税・クラウドファンディング

北海道赤井川村

～人口1100人の小さな村で～
バスがなくなるなら、新たにバスを走らせる!
人口1100人!小さな村の、大切な「公共交通」の存続を応援してください。

新たな地域公共交通体制の構築に向け、地域公共交通バスを導入します。

全国各地からの応援メッセージ

交通機関への不便さは、私も経験しております。少しでも皆さんのお役に立てれば、活気のある赤井川村になりますように。

2022年1月11日 15:42

私も地元でかつて同じようなことがあったので他人事と思えません。何とか皆さんの希望が叶いますように!

2021年12月31日 22:31

みんなにとって使いやすい柔軟性のある交通機関となると良いと思います。頑張ってください。

2021年12月31日 22:00

私は北海道の炭鉱の町の出身です。保育園や学校に行くには、バスを利用するしかありませんでした。ある時、大雪でバスが止まり、保育園から妹と、数時間雪の中を歩いて家に帰った事を今でも鮮明に覚えております。赤井川村にとってバスは生活の為に絶対必要な物だと思います。少ない金額ではありますが是非お役に立てればと思い寄付をさせて頂きました。

2021年12月26日 16:47

ガバメント・クラウドファンディングの取り組み

小樽出身者です。実家が下宿屋をやっている、赤井川の高校生が数人下宿していました。Fight!赤井川。

2021年12月21日 16:27

北海道出身です。特に冬時期のバスの重要さは身をもって知っています。住民の皆様の生活が快適になりますよう、微力ながら応援しています。

2021年12月5日 11:34

余市へのバスがなくなることを初めて知りました。キロロリゾートのある村で観光客が訪れるというだけではなく、村に住んでいる方々の日常生活を維持する手段が維持され、公共交通機関を利用して村を訪れる人も増えることを願っています。そして余市からの鉄道も維持されることも希望します。

2021年11月23日 16:40

ふるさと納税の本質とは何かを考えさせられました。取組みに賛同致します。少額で恐縮ですが支援させていただきます。

2021年11月7日 8:44

—地域が自らデザインする新しい地域公共交通— “むらバス” 走り続けています

冬の訪れが例年より遅い感じがしておりますが、皆様がお住いの地域はいかがでしょう？

令和3年11月から令和4年1月にかけて、ガバメント・クラウドファンディング(ふるさと納税)により、全国各地の皆様からご支援をいただきました「むらバス」は、地域の大切な公共交通を守り続けています。

この「むらバス」の取り組みが、「令和5年度地域公共交通優良団体国土交通大臣表彰」に選定されました。あらためまして全国各地の皆様へ感謝をお伝えさせていただきたくご案内させていただきました。

地域のバス利用者の皆さんや高校生との話し合いを進め、運行ルートやダイヤをデザインした「むらバス」ですが、人口1,275人のこの村で、11月の「むらバス」利用者は1,873人、本年4月から11月の利用者は9,300人を超え、民間路線バス時代と比較して1.6倍のご利用をいただいております。

引き続き、村で暮らし続けるために必要な「むらバス」として、また、地域の公共交通活性化に向けて取り組みを進めていきますことをお伝え申し上げ、近況報告とさせていただきます。

今後も、“人と自然が育む美しい村”北海道赤井川村の持続可能な村づくりに関心をお寄せいただければ幸いです。



the most beautiful
villages
in japan

令和5年12月

北海道赤井川村長 馬場 希
(総務課ふるさと納税担当)



—地域公共交通優良団体表彰につきましては、「北海道運輸局」ホームページをご覧ください—

※本頁は、ガバメント・クラウドファンディングにご協力いただきました皆様へお送りさせていただいております。

ガバメント・クラウドファンディングの取り組み

ふるさとチョイスAWARD2023 「未来につながるまちづくり部門」ノミネート



未来につながるまちづくり部門
北海道赤井川村
ピンチをチャンスに！
地域でデザインする新たな公共交通への挑戦
自治体職員
高松 重和
2022年



未来につながるまちづくり部門
北海道赤井川村



むらバス運行が地域にもたらしたもの
自治体職員
末次 司
2023年



2024.3.16 東京
ふるさとチョイスAWARD2023
審査会開催



アワードへの意気込み
ノミネートされた自治体職員 末次 希さんに意気込みを伺いました。
ふるさとチョイスAWARD2023 「未来につながるまちづくり部門」ノミネート
3/16 当日発表に向けて! 皆様へメッセージ
北海道赤井川村
自治体職員 馬場 希
未来につながるまちづくり部門ノミネート
北海道赤井川村
FURUSATO CHOICE AWARD 2023

赤井川村らしい「むらバス」運行体制

**地域に「あるもの」と「あるもの」を
組み合わせせて新しい価値を創る**

赤井川村らしい「むらバス」運行体制

— 地域公共交通活性化法 — 地域（村内）の交通資源のフル活用 北海道運輸局からの助言 新しい価値を創造

村内企業

村内企業


連携

 Kiroro Ski Resort
<https://www.kiroro.co.jp>

キロロリゾート | Best ski resort in Japan


キロロリゾート、所在地: 北海道余市郡赤井川村岸登128番地1 キロロリゾート、郵便番号: 046-0593、お問合せ: ClubMed Kiroro 0088-21-7008、Yu Kiroro 0135-48-5789
天気とリフト運行状況、リフト料金について、キロロスノーワールドマップ、宿泊



 akaigawa.com
<https://www.akaigawa.com> 施設案内

赤井川ハイヤー — 人と自然が育む美しい村 赤井川村

2022/03/09 — 赤井川村はその四方を山々に囲まれた「カルデラ」の里。さわやかな風が吹き渡るこの里には、人々の情熱とパワーがあふれています。



【観光客・従業員送迎】

【赤井川村スクールバス運行受託】
【村内唯一のハイヤー事業者】

「むらバス」車両＋地域交通資源(乗務員・車両)を最大限活用

赤井川村らしい「むらバス」運行体制

Kiroro Ski Resort
<https://www.kiroro.co.jp>



キロロリゾート | Best ski resort in Japan

キロロリゾート 所在地: 北海道余市郡赤井川村常盤128番地1 キロロリゾート 郵便番号: 046-0593. お問い合わせ: ClubMed Kiroro 0088-21-7008. Yu Kiroro 0135-48-6789
天気とリフト運行状況・リフト料金について・キロロスノーワールドマップ・宿泊

akaigawa.com
<https://www.akaigawa.com> 施設案内



赤井川ハイヤー - 人と自然が育む美しい村 赤井川村

2022/03/09 — 赤井川村はその四方を山々に囲まれた「カルデラ」の里。さわやかな風が吹き渡るこの里には、人々の情熱とパワーがあふれています。



— 連携による効果 —



☑年間 359日間の運行体制を確保

登録乗務員 9人(赤井川ハイヤー2名+キロロリゾート7名 2024.1現在)

☑代替車両の確保

登録車両 5台(赤井川村車両1台 キロロリゾート車両4台)

赤井川村らしい「むらバス」運行体制

— 乗務員確保の現実 —

インバウンド観光のV字回復・国際スノーリゾート地

赤井川村ならではの冬期間のバス乗務員不足

— 車両確保の現実 —

地域住民のバス利用増加・リゾート従業員の通勤利用増加
観光利用の増加

車両の乗車定員増加を検討

赤井川村らしい「むらバス」運行体制

しごとの創出 + 地域内経済循環

新しい価値を創造=地域に「新たな仕事」を生む
地域経済循環の仕組みを創出



そもそも「バス」は「何のために」必要なのか？

高校生の通学のため…

高齢者の通院のため…

運転免許を持たない人のため…

地域から公共交通をなくせないから…

バスはなくなってもいいのではないかの声…

利用される公共交通への挑戦

そもそも「バス」は「何のために」必要なのか？

ありたい姿を共有する

－目的と手段を明確に－

ありたい姿【目的】=利用されるバス運行によって、
暮らしやすさが向上する

そのための方策【手段】=地域からバスをなくさ(せ)ない!!

利用される公共交通への挑戦

利用されるためのバス運行とするには、

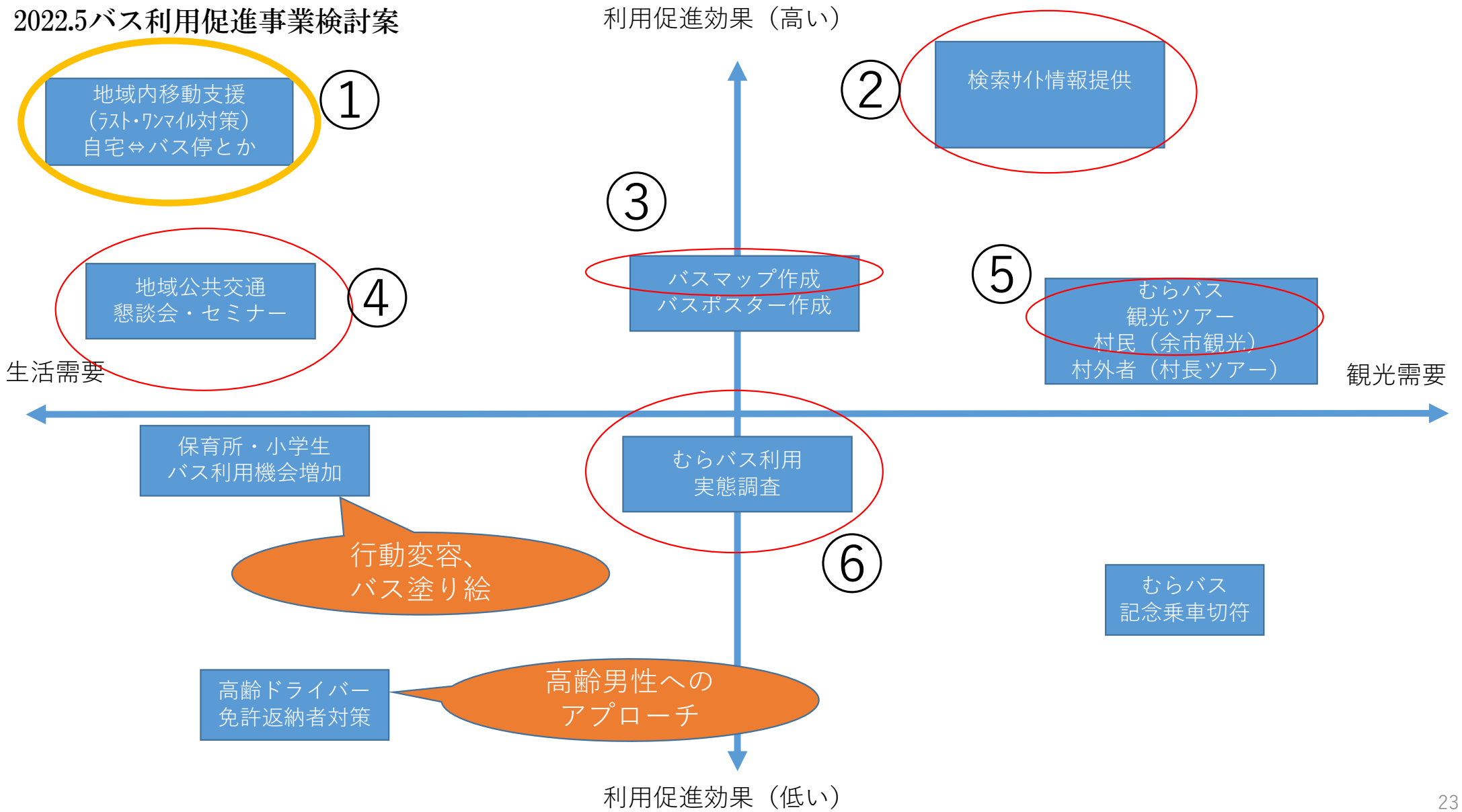


「バス利用者」の声 「むらバス乗務員」の声

を大切にする。

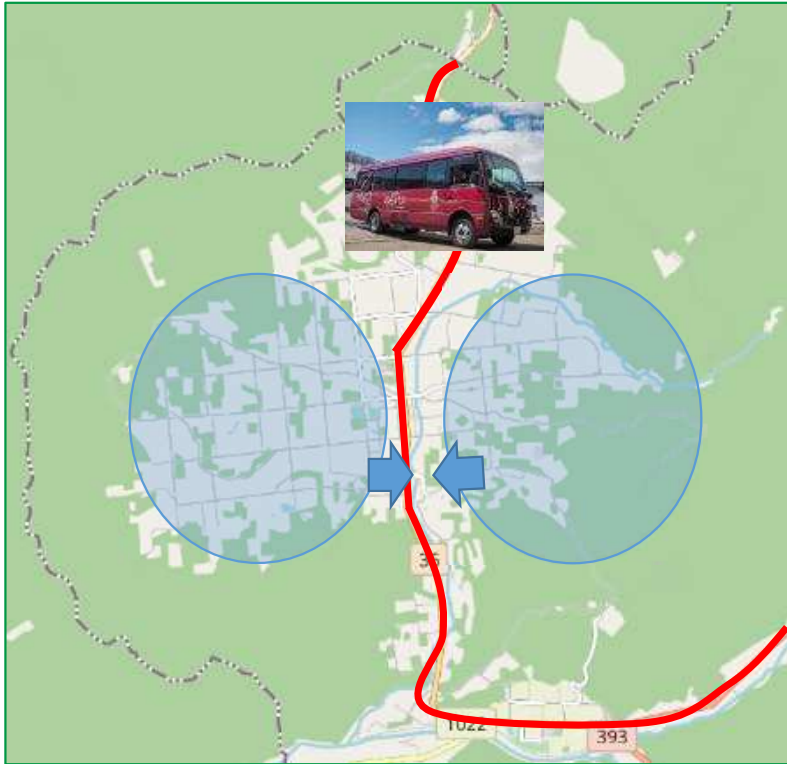
(すべての要望には応えられませんが……)

2022.5バス利用促進事業検討案



利用される公共交通への挑戦①

ラスト・ワンマイル対策
2023.8.1スタート！



交通空白地への対応



過疎地域交通空白
自家用有償運送

×

地域おこし協力隊

運行主体
社会福祉協議会



赤井川社会福祉協議会
送迎サービスのご利用案内

地域おこし協力隊の「かとうくん」が運転する
「おでかけアシストサービス」「通院送迎サービス」が
2023年8月 スタートします！
※社協職員、ボランティアスタッフが遠征にお伺いする場合があります。

- 「おでかけアシストサービス」は自宅から村内の移動に
 - 利用対象者 赤井川村民(会員登録をした方)なら基本どなたでも利用可能
 - ルート 村内のみ(自宅から、バス停、温泉、体育館、公共施設、役場、郵便局、健康支援センター、セイコーマート、両村商店など)
 - 利用内容 100円 100円 一回(片道)100円
 - 料金 自宅 目的地 自宅 ※初回ご利用時にのみ入会費1,000円がかかります
- 「通院送迎サービス」は余市町や仁木町の病院への移動に
 - ※通院送迎サービスのご利用には条件がございますので、まず社会福祉協議会事務局までご相談ください。
 - 利用対象者 要介護、要支援認定を受けた方、自立支援事業対象者、障害者、妊婦等
移動困難と認められる方が対象のサービスです
登録制(申請して必要と認められた方)、入会費は必要ありません
 - ルート 赤井川診療所、余市町と仁木町の病院、施設(札幌、小樽、倶知安は不可)
 - 利用内容 ※院内の付き添いもいたします。
往復で1,500円(赤井川診療所は500円)
 - 料金 自宅 病院 自宅
- 予約方法と休業日
電話 34-6068 社会福祉協議会事務局まで(原則3日前までに要予約)
休日 土、日、祝日、年末年始12/30~1/5
赤井川社会福祉協議会

利用される公共交通への挑戦①

2023.8～2024.1利用実績

－おでかけアシストサービス－

会員登録数 30名
輸送回数延べ 234回

〈輸送資源〉

登録運転者数 9名
登録車両 3台

－通院送迎サービス－

会員登録数 25名
送迎利用回数 74回



利用される公共交通への挑戦②



※年齢は全体集計、資料作成の都合で順番を変えています

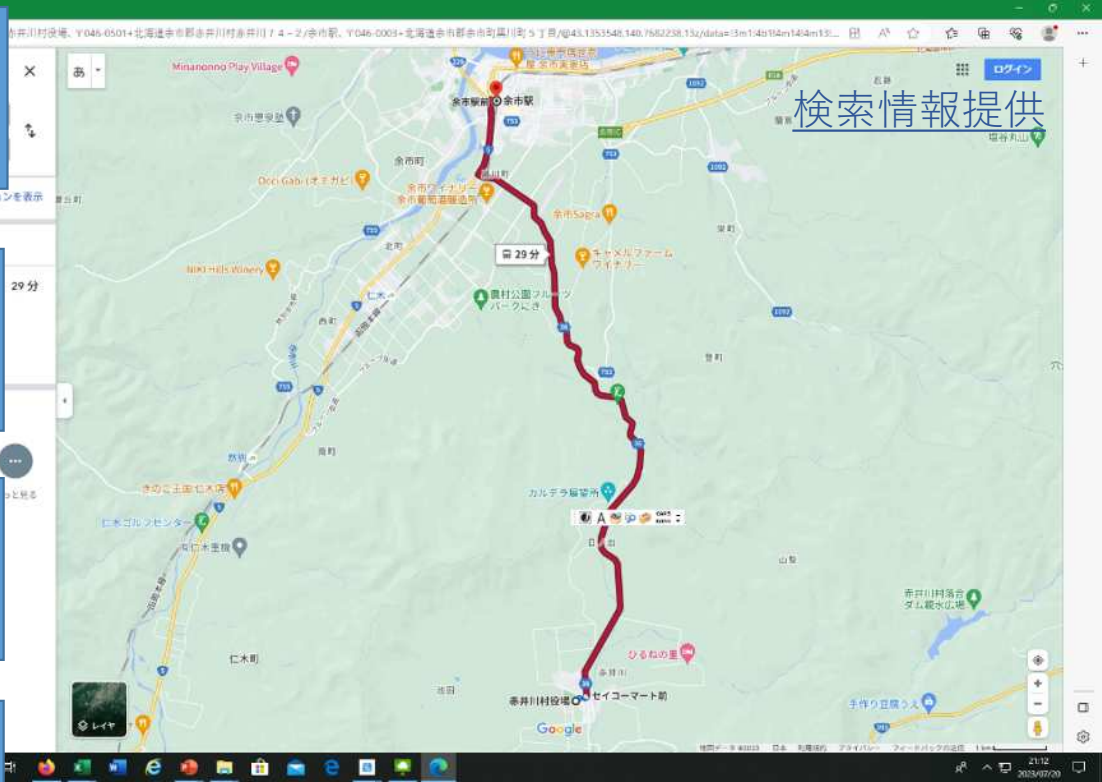


高校生から64歳までの
利用が約80%

アフターコロナ
(観光需要)対応

smart phone
普及

交通障害への対応



**誰もが「むらバス」へアクセスできる環境
Mobility as a Service (MaaS) の一歩！**

利用される公共交通への挑戦④



～村民の皆さんと創り続ける「赤井川村の公共交通」～

日時 令和4年 8月 5日 (金) 16:00～18:00
【開場 15:30】

※新型コロナウイルスの感染拡大状況によって、
中止となる場合がございますので、予めご了承ください

会場 赤井川村健康支援センター
(北海道余市郡赤井川村字赤井川318-1)

【プログラム】

事業報告 赤井川村 むらバス利用状況等 報告

日本データサービス株式会社 計画調査部
・むらバスの利用状況について
・今年度実施する事業について

講演 地域の皆さんと創り続ける公共交通とは

・NPO法人まちづくり支援センター 代表理事
・総務省 地域力創造 アドバイザー
・国土交通省関東運輸局 地域公共交通マスター
為国 孝敏 氏
群馬県・栃木県において、多くのまちづくり活動や人材育成の支援・コーディネートに携わる。「地域の元気はみんながその気になること」をモットーとして、地域に合った最適なまちづくり手法を検討し、実践活動を支援している。



ワークショップ これからの赤井川村に必要な公共交通は？

・参加者の皆さんとグループワークを行います。
・村民の皆さんが今後、赤井川村に住み続けるにあたって、利用したいと思う公共交通について、積極的な議論をお願いいたします。

入場無料で、どなたでも参加できますので、ぜひご参加ください

【主催】赤井川村総務課総務係 電話：0135-34-6211
北海道余市郡赤井川村字赤井川74 - 2

※当日、会場までの移動が難しい村民の方は、送迎を行いますので、
8月3日(水)17時までに赤井川村総務課総務係までご連絡ください



「これからの赤井川村に必要な公共交通は？」
「利用してどう？」参加者と意見交換を継続

地域自らデザインする公共交通を継続！



バス利用者の声・乗務員の声を参考 運行2年目(2024.4)のダイヤ改正へ

利用される公共交通への挑戦⑤

むらバスで余市町まで 出かけてみませんか？

村では村民の皆さんの余市町までの足の確保として、令和4年4月1日より、「むらバス」の運行を開始しました。これまで、村民の皆さんと対話の機会を設けていただいたこともあり、村民だけでなく、多くの利用をいただいているところです。

現在、主に通勤・通学などで「むらバス」を利用いただいておりますが、余市町までのお出かけにも便利になった「むらバス」をもっと知っていただくため、「むらバス」による余市町までのお出かけツアーを開催いたします。

ツアー開催日 令和4年 **10月2日**(日)
※申込期限：9月26日(月) 15:00まで

ツアー参加費用 お一人 **2,500円** + 往復バス運賃

～11:27	・むらバス3便で余市町へ ※バス車内で参加者確認を行いますので、 必ず3便に、ご乗車下さい
11:30～12:00	・ニッカウヰスキー売店での買い物や余市駅周辺を散策
12:00～13:20	・「MareBlu & MORAN BAGEL」でランチ ※お食事とドリンク2杯のランチになります ※お食事は「お肉料理」か「お魚料理」が選べますので、申込時にお知らせ下さい ※アレルギー等のある方は申込時にお知らせ下さい
13:27～	・むらバス4便で帰宅 ※帰りは自由解散となります

「むらバス」車内やツアー時の3密を避けるため、大変恐縮ですが、ツアーの**催行最大人数を10名**とさせていただきますので、参加を希望する方は、お早めのお申し込みをお願いいたします。

【参加申込／お問合せ先】
赤井川村 総務課 総務係 ☎(電話)：0135-34-6211
☎(FAX)：0135-34-6644

新型コロナウイルス感染予防対策として、お食事以外の場面ではマスクの着用、バス乗車の際のアルコール消毒をお願いいたします。
皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

赤井川村社会福祉協会主催 「むらバス」買い物ツアー



むらバス利用の
「きっかけ」づくり

「むらバス」を
身近に感じる！

利用される公共交通への挑戦⑥

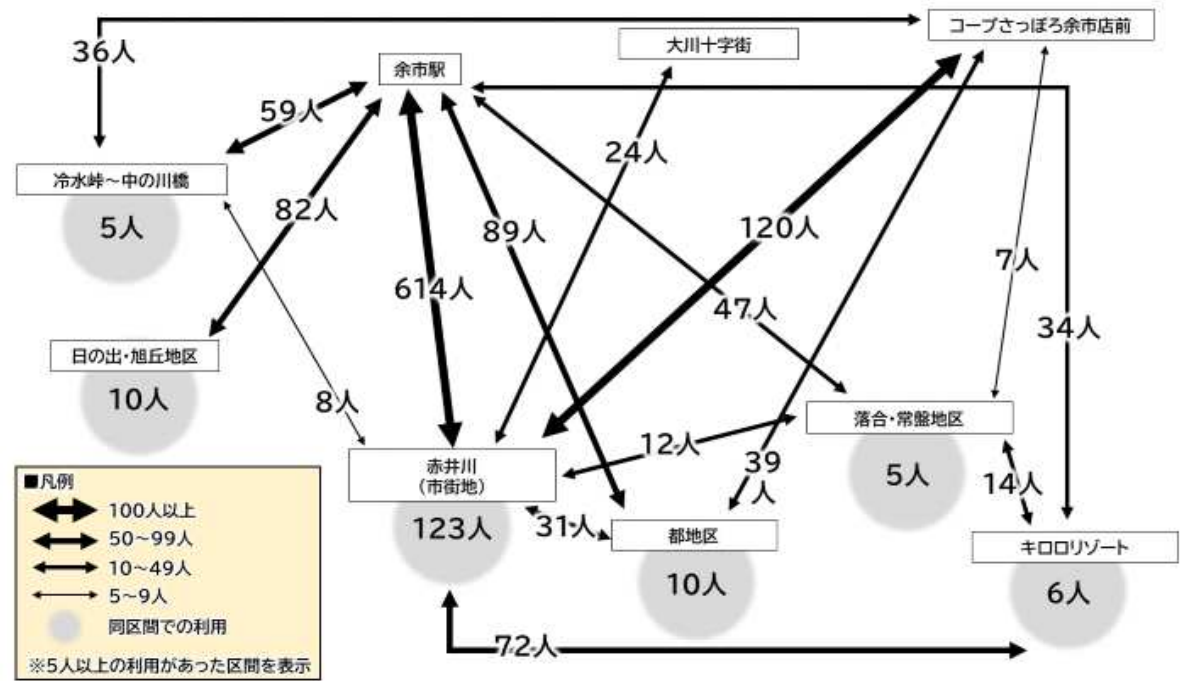
利用状況の調査にご協力をお願いいたします

【調査実施主体】:赤井川村 総務課 担当者:高松、末次
 【調査実施機関】:日本データサービス株式会社 計画調査部 担当者:中野
 各質問について、該当箇所を指で折り込み、降車の際に調査員へお渡してください。

問1 利用目的							
① 通勤(帰宅)	② 通学(帰宅)	③ 買物(帰宅)	④ 通院(帰宅)	⑤ 私用(帰宅)	⑥ 観光(帰宅)	⑦ 業務(帰宅)	⑧ その他(帰宅)
問2 むらバスに乗車する前の交通手段				問3 むらバスから降車した後の交通手段			
① 徒歩	② 自転車	③ 自動車(自ラ運転)	④ 自動車(送迎)	① 徒歩	② 自転車	③ 自動車(自ラ運転)	④ 自動車(送迎)
⑤ J・R(小樽・札幌方面)	⑥ J・R(南千歳・苫小牧方面)	⑦ 高速バス	⑧ 路線バス	⑤ J・R(小樽・札幌方面)	⑥ J・R(南千歳・苫小牧方面)	⑦ 高速バス	⑧ 路線バス
⑨ スクールバス	⑩ タクシー	⑪ その他		⑨ スクールバス	⑩ タクシー	⑪ その他	
問4 乗車場所							
① キロロリゾート	② 落合・高盤地区	③ 都地区	④ 赤井川(市街地)	⑤ 日ノ出・旭丘地区	⑥ 冷水峠～中の川橋	⑦ 余市駅	⑧ 大川十字街
問5 降車場所							
① キロロリゾート	② 落合・高盤地区	③ 都地区	④ 赤井川(市街地)	⑤ 日ノ出・旭丘地区	⑥ 冷水峠～中の川橋	⑦ 余市駅	⑧ 大川十字街
問6 いま乗車している便							
① [1便]	② [2便]	③ [3便]	④ [4便]	⑤ [5便]	⑥ [6便]	⑦ [7便]	⑧ [8便]
問7 目的地の市町村				問8 年齢			
① 赤井川	② 余市町	③ 小樽市	④ 札幌市	⑤ その他市町村	① 中学生以下	② 高校生	③ 18～64歳
④ 65歳以上	問9 むらバスの利用頻度			問10 性別			
① ほぼ毎日	② 週に2～3日	③ 週に1日	④ 2週間以上1日	⑤ 月に1日	⑥ 数ヶ月に1日	⑦ 初めて利用した	① 男性
② 女性	ご協力ありがとうございました。降車の際に回収BOXに入れてください。						

■利用の多かった区間 (アンケート集計期間: 11月・12月分の合算)

P3

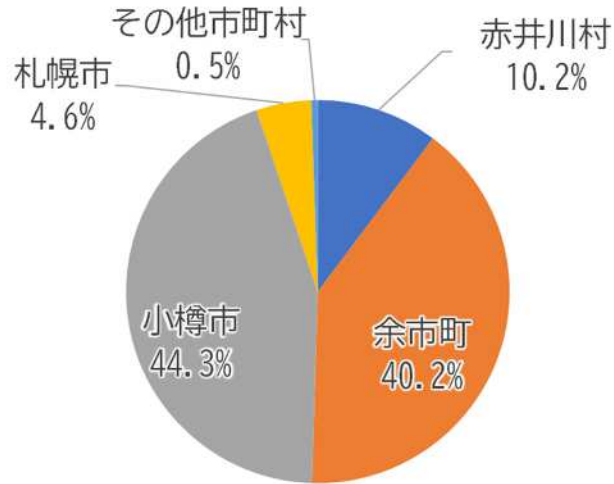


客観的利用データの収集 思い込みからの脱却

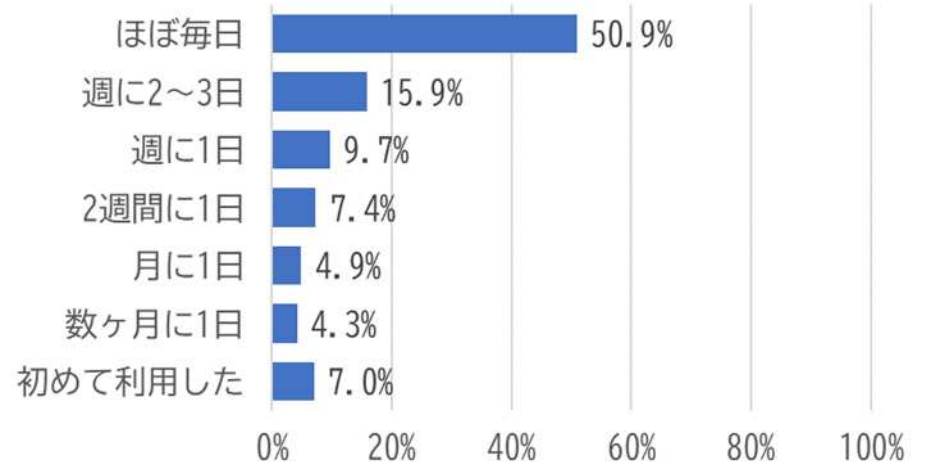
利用される公共交通への挑戦

往路

問7 目的の市町村 (n=927)

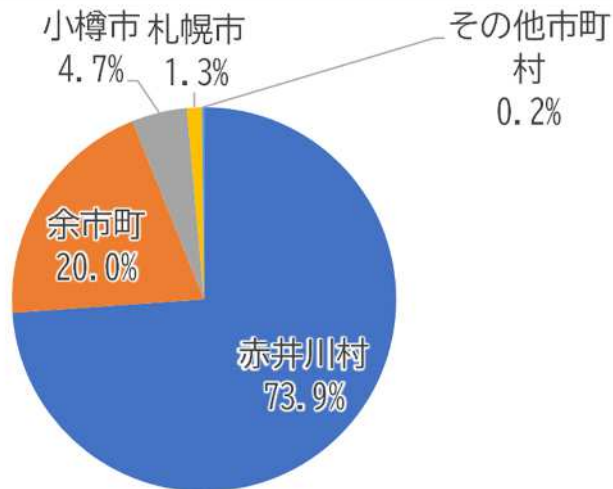


問9 利用頻度 (n=938)

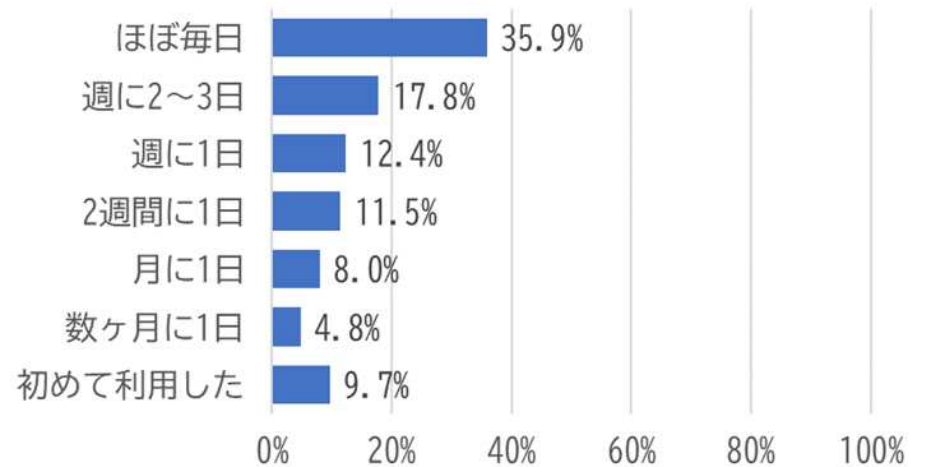


復路

問7 目的の市町村 (n=559)



問9 利用頻度 (n=566)



「むらバス」が地域にもたらしたこと

①地域の中学生が「むらバス」応援団に!

赤井川中学校美術部 × 地域おこし協力隊OB × むらバス



自分たちが将来利用するバスを応援

「むらバス」が地域にもたらしたこと

②地域の小学生が「むらバス」利用者に!

「むらバス」を利用してみんなでお出かけ
地域行事への参加や余市・小樽へのお出かけ



子どもたちが公共交通の利用ハードルを一步越える!!

むらバスが地域にもたらしたもの

③地域の小学生が思い思いの「むらバス」を!

「むらバス」塗り絵作戦で車内を彩る
地域おこし協力隊×子ども教室×むらバス



子どもたちが「ふるさとのバス」をPR

むらバスが地域にもたらしたもの

④個人商店がバス待合所に!

バス利用者のコミュニティスペース
個人商店×むらバス



始発便(6:18)から最終便(18:54)

バス利用者が風雪を凌ぐ

バス待合所という公共空間を提供

むらバスが地域にもたらしたもの

⑤地域の強みをさらなる強みへ!

キロロリゾート×むらバス×観光客・リゾートスタッフ



キロロ観光客・スタッフの利用

キロロへのアクセス向上



小中学生 キロロリゾートシーズン券の有効活用

キロロリゾートへのアクセス向上

むらバスが地域にもたらしたもの

令和5年12月6日

赤井川村地域公共交通活性化協議会が『令和5年度地域公共交通優良団体大臣表彰』を受賞！！

この度、地域公共交通の確保・維持の積極的な取組が認められ、北海道運輸局管内の赤井川村地域公共交通活性化協議会が国土交通省「地域公共交通優良団体大臣表彰」を受賞することとなりました。

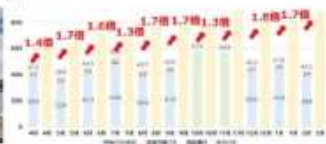
この取組は、村唯一のバス路線の存続協議の申し入れを契機に、村役場が中心となり、リゾート会社の従業員送迎バスといった村内の輸送資源をフル活用し、地域の多様な意見を取り入れ、自らがデザインした持続可能な公共交通「むらバス」を運行するなど、地域公共交通の確保・維持に取り組んだことが評価されたものです。

【表彰式】

- 1 日 時：令和5年12月13日（水）14：00～
- 2 式 場：国土交通省 10階「共用大会議室」
東京都千代田区霞が関2-1-3
- 3 受賞団体：5団体（添付資料参照）

当日は、大石和朗赤井川村地域公共交通活性化協議会会長（赤井川村副村長）が出席予定です。

功績概要等は、添付資料をご覧ください。



▲むらバス ▲輸送実績（廃止前の路線バスとの比較） ▲リーフレット

（地域公共交通優良団体大臣表彰）

地域公共交通に関する取組が他地域の模範となるような顕著な功績がある団体を表彰することで、優良事例の情報提供等を図ることを目的に、平成21年から実施しています。

（過去の表彰実績） https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/sosei_transport_tk_000042.html

【問い合わせ先】北海道運輸局交通政策部交通



むらバスの認知度向上

むらバスが地域にもたらしたもの

フタシのまちの... 赤井川村

バスに乗る人を
増やすことだって、
「脱炭素」です。

「ゼロカーボンビレッジ AKAIGAWA」を掲げ、その取り組みを急ピッチで進めている赤井川村。まちづくりと脱炭素を結びつける考え方が、「一歩目」になり得ることを教えてくれました。

まちづくりの中核を担うのが、「赤井川エネルギービジョン」。

赤井川村は他の地方自治体と同様に人口減少が訪れています。平成27年に村ならではの特性を生かしたまちづくりを進めるため、第4期赤井川村総合計画を策定しました。その中核を担うのが、令和2年に再エネの活用プロジェクトとして掲げた「赤井川エネルギービジョン」です。

このビジョンでは、地域資源をフル活用した再エネの導入プロジェクトを7つ打ち出しています。例えば、村内のカルデラ温泉熱や地熱熱を利用し、隣接する体育館も含めたエネルギー利活用の検討を進めていたり、小水力発電を事業化できないか調査したり、ゼロカーボンのまちづくりに向けた小さな一歩目に踏み出したところです。また、おもしろい話ではありませんが、これまで40年近く村有林の手入れができずにいたため、令和5年度よりCO₂吸収源開発として森の成長を促す間伐をスタートさせました。

「良い出会い」をつかむために、アンテナを張るのも大切。

赤井川村がゼロカーボンのまちづくりを進めてきたのは、地勢的な

高松 重和さん

赤井川村総務課長
平成5年、赤井川村役場に就任。福祉、農業、総務の仕事を経て、道の駅運営のプロジェクを統括。令和元年より現職。



赤井川村では、村内の林業事業者が村有林の間伐をスタート。若年度、北海道大学、民間企業と連携し村内100世帯以上のエネルギー消費量の調査を実施し、地域のCO₂リサイクル計画を策定。排出量の見える化により、CO₂の削減と収益によりカーボンニュートラルを推進。その他、小中高生にゼロカーボンを学んでもらう取り組みにも積極的。



います。10年以上も前のこと、大手エネルギー事業者が再エネ資源を開発するために村内で地熱発電のポテンシャル調査を始めました。このご縁から開発調査の理解促進協議会が立ち上がり、商工会や観光協会の若手が勉強会を開いたり、再エネに対する機運が徐々に盛り上がってきたんです。かつて赤井川村には鉱山があり、小水力発電による電化を成功させた歴史を持つため、民間企業と村が連携し、旧発電所跡地を活用できないかと小水力発電の可能性調査にも乗り出しました。

いをつかむためにアンテナを張っておくことは大切だと感じます。

交通や観光などのまちづくりも、脱炭素と紐づく要素です。

私自身、ゼロカーボンの担当となった当初は、再エネで電力をつくることしか頭にありませんでした。もちろん、脱炭素の知識も、推進支援の情報もゼロ。けれど、北海道大学の石井一英教授と出会ってからは、考え方がガラリと変わりました。キーワードはゼロカーボンですが、やるべきことは地域資源の解決

らしいカルデラ盆地を自転車でも走ってもらうのも環境と観光を結びつけた脱炭素の取り組みにつながる可能性があります。村内の温泉をより魅力的なコミュニティにできれば、人が集まる分だけ家庭のエネルギー消費量を減らせるかもしれません。

我が村では令和4年に民間のバス事業者が撤退し、村が運行主体となり「むらバス」を運行することになりました。それまではJRとの接続が良くなかったので、村外の高校に通うために保護者がクルマで余市駅まで毎日送っていましたが、今は、バス・JRの接続に合わせたダイヤを地域でデザインし、バス通学が可能となることで高校生の家庭のガソリン代を削減し、小さな脱炭素にも寄与できています。

このように地域の観光や交通、コミュニティなど、自治体の「暮らし」に目を向けると、脱炭素に紐づく切り口が見えてくるはず。ただし、私たちのような自治体職員だけではアイデアを発想するのも、実行に移すのも到底不可能。そのためにも、地域の皆さんや学校、民間企業、大学などと手を携えることが大切です。むしろ、私ができることは、「マイボトルを持つのも、バスに乗るのも、環境保全型農業を進めていくのもゼロカーボン」と、音が温ざり合うきっかけを生み出すことだけですね（笑）。

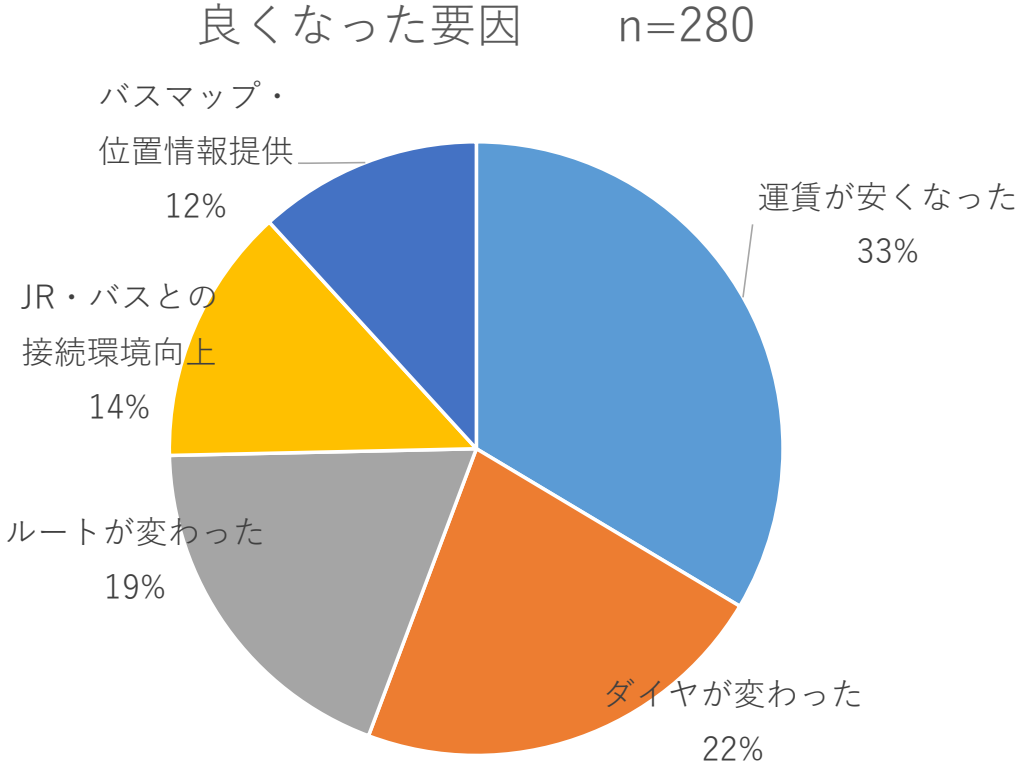
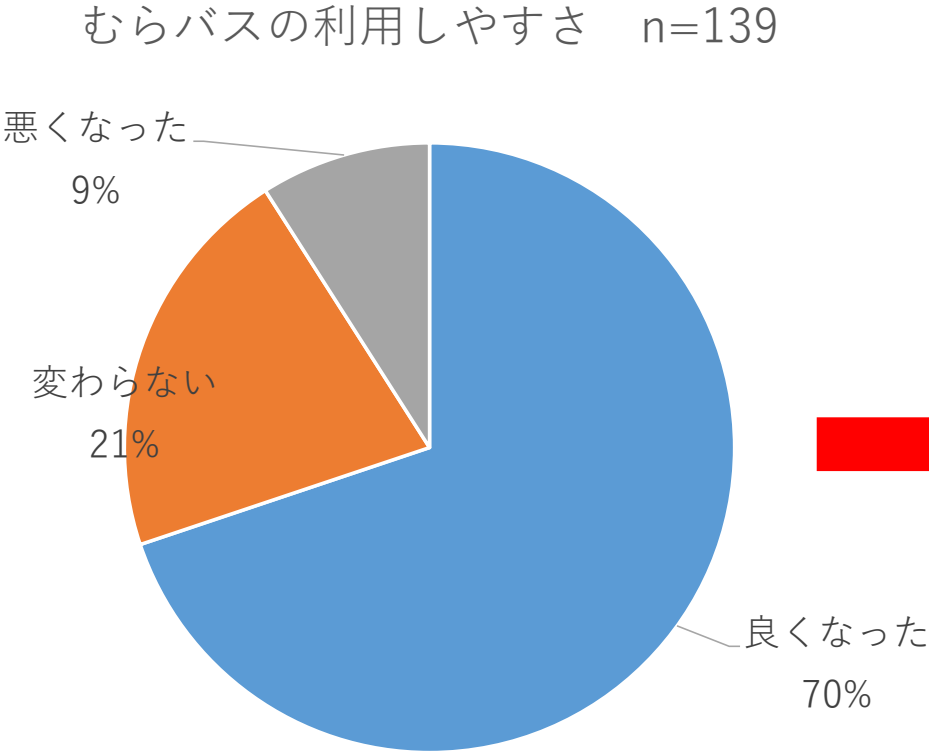
赤井川村の第一歩は... 脱炭素を難しく考えない視点の切り替え。



脱炭素社会への寄与

むらバスが地域にもたらしたもの

2023年度 地域福祉計画策定住民アンケートより



利便性の向上 (バス利用者の声)

むらバスが地域にもたらしたもの

バス利用者

赤井川ハイヤー

キロロリゾート

個人商店

社会福祉協議会

小中学生

むらバス
赤井川村



共創

公共(むらバス)
みんなで支える

ふるさと納税
全国各地の皆様
企業の皆様



北海道運輸局

北海道

余市観光協会

中央バス

地域おこし協力隊



the most beautiful
villages
in japan

「日本で最も美しい村」連合

**むらバス運行に関係するすべての皆様へ、
あらためて感謝申し上げます。**

え〜ぞ・しりべし【北海道後志総合振興局公式】を検索！

2022.3.31北海道中央バス最終運行セレモニーが動画で見られます